思い出の写真シリーズ　第15回

第１回小学生市町村対抗駅伝大会に思う

長野市陸協　理事　古田　新造

平成１７年５月８日、第１回の小学生による市町村対抗駅伝大会が、松本広域公園陸上競技場周辺にて開催され、私も当時、協会のジュニア部を担当しておりました関係上、嫌や応なしで監督と言う責任を負うことになりました。

この大会も、前年から計画されつつあったと思いますが、発表にならないので半信半疑でいました。４月も早々に大会が開催されると発表になり、早速、小学生５・６年生主体に、浦野理事長さんと相談、各小学校長に案内を出しました。

選考当日は、男女各数名の参加でした。しかし、この中の選手は幸いにも、竹内さんの所で指導を受けている生徒たちで、川中島の河川敷でトレーニングしているとのことで、気持ちをなでおろしました。選考から大会まで１ヶ月なしの短い道のりでしたが、週３～４回のトレーニングをして下さっていた竹内さんに感謝、大会まで僅かな日数ではありましたが、便乗させて頂き、練習を行なうことが出来、大変心強く感じました。どうやら怪我人もなく、大会までベストメンバーで臨むことが出来ました。

大会当日は、一般の部も開催されており、大変な混雑ぶりでした。大会は、前半１位を優位に立って競技が行なわれましたが、タスキ１本のリレーは、県縦断駅伝しかり、正月の大学生の駅伝もしかり、ベストで望んでも、アクシデントが起るのが駅伝の常です。幸いにもみんな頑張り、２位の成績で、第１回大会が終わることが出来、安堵の胸をなでおろすことが出来ました。

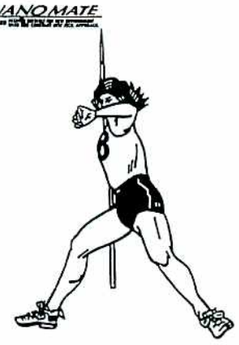
参加した選手の父兄も、第１回大会がこのような良い成績を納め、良い滑り出しが出来たことを大変嬉しく思った次第でした。後日、一般の部は連覇をしたことで、同乗して市長へ、表敬訪問することで、子供たちは父兄共ども大変記念すべき大会になりました。写真は表彰式の一場面です。

編集後記

第９１回日本陸上競技選手権大会と世界陸上大阪長居競技場へ２度も行く機会を得る。応援する者、選手共々、暑いのには参った。高温多湿は、予期せぬアクシデントの起因になった。全ての種目に期待したが、終わってみたら、女子マラソン土佐礼子の銅メダル１個。もっぱら男子マラソンで団体の金メダルはおまけか。それでもワールドカップ３連覇である。リレーで塚田直貴選手等日本チームはアジア新を連発、良く頑張ったと思う。

秋田国体２９日に開幕。高校３年の時に、専用の団体列車で時間をかけて秋田市入り。当時は、民宿で地元の皆様に大変お世話になり、若かりし頃の思い出がよみがえって来る皆様も多いかと思います。国体一巡、同じ県で２度目の国体。４０年以上が過ぎて行く。歴史が刻まれるはずである。長野県及び長野市の選手に期待しつつ、又今回、原稿等に協力頂いた皆様に心から感謝致します。

平成１９年１０月
広報部長　若松軍蔵

SHINANOMATE

ATHLETIC　UNIFORM
しなのメイト 株式会社
〒389-0606　埴科郡坂城町大字上五明992-2
PHONE　(0268) 81－1336
F A X　(0268) 81－1337

長野市陸協会報
第 18 号
平成19年10月18日
発行所　長野市陸上競技協会
発行人　浦野義忠
編集人　若松軍蔵

題字の"動き"は長野市陸協三代目会長 山浦保氏の書で、山浦会長の頃、市陸協会報紙として何号か発行されていました。

高校生アスリートの活躍

インターハイで３名入賞

８月２日から６日まで佐賀市で開催されました第６０回全国高等学校陸上競技選手権大会において、長野工業高等専門学校３年生の原弥太郎君が８００ｍで第５位に入賞、長野吉田高校１年生の早川恭平君が１１０ｍＨで第５位入賞、長野工業高校３年生の西澤直希君が６位入賞という素晴らしい成果を残してくれました。まことにおめでとうございます。これからのご活躍をご期待申し上げます。

長野工業高等専門学校　３年　原　弥太郎

インターハイ８００ｍで５位入賞。これも多くの方々の応援があってこそでした。伊藤先生をはじめ長野市陸協の先生方から物神両面で応援を頂き、お礼申し上げます。また大会で運営をなさって下さった各陸協役員の方々、ずっと導いて下さった先輩、いつも共にあり佐賀の地まで応援にきてくれた同期の仲間、後ろから押してくれた後輩、垂れ幕まで用意して下さった学校の方々、指導して下さり大会の度に引率して下さった顧問の先生方、そして佐賀まで来てくれた両親。多くの方々に感謝しており、またそのような多くの声援に応えることができたことをとても嬉しく思います。そしてずっと指導して下さり、佐賀の地でも常に面倒を見ていただいた内山先生に、やっと恩返しができたと思っています。この場を借りて、その全ての方々に感謝の意を示します。

インターハイは台風の影響があり、最初２日間は荒れた天候となりました。ニュースにもなった４００ｍ時にテントが飛んだのは、私が走った２つ後の組のことです。４００ｍはそのような中での試合でしたが、自己ベスト更新、準決勝進出と良い結果が残せました。欲を言えば決勝も走りたかったですが。２日後の８００ｍは、台風の影響もなく良いコンディションでした。北信越で４位まで独占した長野勢、互いが敵でありながらも試合では励まし合いながらレースに挑みました。結果、決勝に残れたのは私だけとなってしまいましたが、彼らがいなければそれも無理だったでしょう。そして、高校最高峰の大会の決勝という場、先生に背中を押され、選手紹介では多くの方々の拍手を頂き、そして今までレース全てをぶつけたその一走。結果、ベストを僅かに上回り５位入賞。一生色褪せぬ思い出となりました。

現在、競技人口の減少が見られる陸上競技ですが、仮にこの結果がその流れに影響を与えることがあれば、これに勝る喜びはありません。願わくば更なる高みへと。

長野吉田高校　１年　早川　恭平

僕は、８月２日から６日にかけて佐賀県で行われたインターハイにおいて、男子１１０ｍハードルに出場させていただきました。僕が出場した種目は、最終日に行われましたので、非常に調整が難しく、また台風の影響で競技日程がずれるかと思いましたが、大丈夫でした。長野吉田高校や長野県の選手の皆さんを応援しつつ練習を続け、試合当日を迎えました。

当日は正直、とても緊張していました。初めてのインターハイでどうなるのかと不安でしたが、気持ちを切り替え、自分の力を出しきろうと思いました。当日は体もよく動き、気持ちがしっかりできていたので、予選から全国のライバルに、また何より自分に勝負するつもりでレースに臨みました。

予選は、向い風ながら自己ベストで準決勝に進むことができました。全国の舞台で２度も走れるなんてそれだけでも嬉しいことですが、ここまできたらやってやる、そう思って準決勝を走り、自己ベスト、そして決勝へ。すべてが夢のようでした。そして何も考えず決勝へ。５位入賞、また高１歴代最高記録のおまけつきでした。

今回、このような自分の走りができたのも、顧問の先生方の暖かいご指導や、大会中の先輩方などからのサポート、大会まで一緒に練習を行ってくれた仲間のおかげだと思います。本当にありがとうございました。

今後も、感謝の気持ちと謙虚な心を忘れずに、競技や練習に取り組み、もっと上の強い選手に心身共に成長していきたいと思います。この結果に満足せず、日々努力していきますので、今後もご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いします。

長野工業高校　3年　西澤　直希

僕は、今年の夏に、高校1年生の時からの夢であった「インターハイ入賞」という目標を達成することができました。昨年も、インターハイに出場させて頂いたのですが、始めての大舞台ということで、自分の思うような結果が出せず「記録なし」で終わってしまいました。あの時は悔しくて、来年は絶対にインターハイ入賞を達成しようと心に決めて、練習に励みました。

その練習内容として、僕は、空中での動きが苦手で、あまり得意ではない方なので、1年生の時から取り組んでいたつり輪やロープを使った空中動作の改善を行いました。そして、ポールも1段階堅いポールを使えるように、助走からの入りの高さや強さを良くしてインターハイに挑みました。

喜びの表彰台での西澤君

インターハイ当日は、台風が近づいていて、経験したことのない強い風と雨に見舞われていました。その中の予選は1日延期になり、準備してきた体調や気持ちを持続させるのが大変でした。

やっと迎えた予選では、予選通過記録が4m70だったので、始めの高さを4m60に設定し、跳ぶことができました。そして、4m70では昨年の経験を生かし、気持ちを落ち着かせ無事に跳ぶことができ、本当の戦いの舞台に立つことができました。

決勝も、相変わらず台風の影響で、予選から1日空けた試合でした。当日は、4m60をパスして気合いを入れ、4m70から始めました。予選と同じように跳ぶことができ、4m80に望みました。僕の自己ベストであるこの高さを1発でクリアすることができ、確実に入賞するために4m90を跳びたかったのですが、3回ともバーを落としてしまい、跳ぶことができませんでした。

結果としては、試技の差で6位になることができました。このような成果を出すことができたのは先生を始めとして協会の方々や班員、そして家族のお陰だと思いました。本当にありがとうございました。

小口正行先生 表彰される

この3月まで長野陸上競技協会副会長、北信地区陸上競技協会会長の要職をされていた小口正行先生の表彰式が、第49回北信陸上競技選手権大会で行われた。

先生は、長野陸上競技協会理事長として、昭和62年～平成6年まで8年間の長きにわたり努められ、その後平成7年～19年3月まで12年間、長野陸協副会長、北信地区会長として、県、北信陸協発展のためにご尽力いただきました。

先生は、理事長時代から常におっしゃっていた「陸協は、選手達の活躍があって、初めて発展があるのだ」というこの言葉を、私たちも重く受け止め、受け継いで行かなければと思っています。先生には長い間ほんとうにご苦労様でした。ありがとうございました。

陸上クラブ紹介 No.14 長野商業高校陸上部

こんにちは、長野商業高校陸上部です。今年度は、3年生1名、2年生3名、1年生5名の計9名で、活動しています。

前顧問の藤井先生から引き継いで4年目になりますが、この間、藤井先生、陸協のみなさんには大変お世話になっており、御礼申し上げます。特に、やり投の春原亜紀については、1年生の時からご指導をいただき、今年の佐賀インターハイ出場を果たすことができました。1・2年生の部員たちも先輩に続いて、ひとつでも上位の大会へ進めるよう、目標を定めて練習に取り組んでいます。

シーズン中は、東和田の陸上競技場での練習を中心に行い、各自の目標達成のために練習をしています。しかし、ここ2・3年、新入生の入部数が少なく、部員不足に頭を痛めています。それでも、今年は何年か振りに、男子のリレーを組み、大会にエントリーをすることができました。また、個々の選手たちをとっても、華々しい活躍をするわけではありませんが、少しずつ力をつけてきているように思われます。まだまだですが、日々向上心を持って練習に取り組んでいくことで、各自の目標が達成できるよう、1・2年生の選手たちのこれからに、期待をしています。

現在の長野商業高校陸上部は、かつてほどの力は持っていませんが、これからも、陸協のみなさんのご指導をいただきながら、選手、顧問ともども、少しずつ成長をしていきたいと思っています。

今後ともどうぞよろしくお願いします。

長野商業高校　陸上部　顧問　牧内淳一

第13回 ホープさん

長野吉田高校2年 峰村いずみ

「悔しさをバネに上を目指す!!」

私の高校に入ってからの陸上は、悔しさがあるからこそのものでした。1年生の時のインターハイ予選の地区大会などでは、全くいい記録は出ず、中学の時の自己ベストとは、とても遠いものでした。

しかし、夏休みにさまざまな合宿に参加させていただき、新人戦大会では、やっと自分の力が、元に戻すことができたと感じました。また、その頃から記録が伸び始めました。冬期にも、駅伝や全国レベルの合宿に参加させていただき、走るたびに力がついているなと、実感できるようになりました。精神面も、とても成長することができました。

そして、今年のインターハイ予選が始まりました。県大会では、北信越大会には進めたものの、ゴール直前での転倒があり、順位をおとしてしまいました。その時、悔しさでいっぱいになりました。でも、北信越大会では、その気持ちがあったからこそ、自己ベストを大幅に更新し、インターハイ出場をすることができました。本当に、仲間の支え、先生方のご指導があったからこそ出来たということ、感謝の気持ちでいっぱいになりました。本当にありがとうございました。

しかし、インターハイでの結果は、第2コーナーでの接触・転倒、記録的には最下位でした。この結果は、本当に本当に悔しかったです。でもこの体験した気持ちは、絶対に忘れてはいけないと思いました。この気持ちがあるからこそ、来年のインターハイ・国体に向けての強い意志・目標を持つことができました。

悔しい思いをすればするほど、どんどん力はついていくと思います。練習だけでなく、先生方・仲間への感謝の気持ちを忘れず、絶対に強くなるんだという気持ちと共に日々進化していきたいと思います。

シリーズ その3 市陸協を支えてくれる方々

長野スター商会の社長、奥様には、大変お世話になっております。お店へ顔を出しても、笑顔で暖かく迎えて下さり、何かほっとするようなお店の雰囲気をもっています。市陸協も、プログラムの広告、また駅伝のカンパにも、永年に渡りご協力を賜り、大変ありがたく思っています。お店の益々のご発展を心よりご祈念申し上げます。

“月桂冠”

陸上競技　Athleteのイメージ

より速く　より高く　より遠くへ　美しく輝く

―― 千日の鍛　万日の練　勝負一瞬 ――

「月桂冠というものは、どこでご覧になっても、幸福よりも、苦悩のしるしです」　タッソー

大会での、へたばり、ぶっ倒れるほどに戦った“ヤッター”との幸福感、達成感の姿が見ている者に強烈な素晴らしい感動をあたえてくれます。

（当店は支える力はありませんが）自分を支えてくれた人に対し、その恩に報いたいと思う感謝の気持ち「ありがたい」と感じる能力こそ闘争心を高め、モチベーションを強化する最強のエネルギーを生み出す。・・こうした気持ちのない人は、いざという肝心なときに誰からも助けてもらえない。

強運の法則　西田文郎

(株)長野スター商会 社長 北原和人様

“箱根山　駕篭に乗る人　担ぐ人　してまた草鞋を作る人”

長野市陸上競技協会の歴史と文化を認識し、心に若さを持った壮・成・青・少が一体となって、アスリートとして、また、役員として立派な組織作りをされ発展して来られました。感服するのみでございます。

正に、今日の社会ではスポーツで心と身体を鍛え、勝ち負けを経験した粘り強く、自己啓発、向上心のある人が注目され、強く求められております。

強く　明るく　たくましく長野市陸上競技協会がますますご発展されますようお祈り申し上げます。